

利益とキャッシュの関係を理解しよう！

税理士・CFP 山下大輔

企業は利益を追求して経営を行っています。利益を上げることはとても重要な経営目標の一つとっていいでしょう。ところが「勘定合って銭足らず」と言われるように、「利益」＝「キャッシュ」とは必ずしも一致しません。利益が出ていても会社にお金がない！なんということもありうる事なのです。それはなぜでしょうか。

利益は、簡単に言うと売上から費用を引いたものです。会計では売上の場合、掛売上も売上として計上しています。また費用も支払いの有無に関係なく、取引があった時点で費用を計上します。利益は将来もらうか将来払うものも含めて計算されたものなのです。また、減価償却といって購入した資産を時の経過により費用として計上しています。購入した時にお金は出ていきますが、時の経過により減価償却費を計上する時にお金が出ていくことはありません。図表をご覧ください。損益計算書上、利益は20計上されています。この利益から実際の手許にあるお金であるキャッシュを計算するには利益を基に調整計算を行います。利益は掛売上、掛仕入の分も含めて計算しています。一方、実際に受け取っていないもの、支払っていないものはキャッシュの残高には影響しません。利益からキャッシュを求めるには、利益に掛売上が含まれているので、利益から掛売上をマイナスします。また掛仕入を引いて利益を求めているので利益にプラスします。諸経費の未払いと減価償却費も利益では引かれた後の数字ですが、キャッシュの残高には影響がないため利益にプラスしてキャッシュを求めます。利益は実際のお金をもらったか支払われたかどうかに関係なく計算されていますので、キャッシュとは必ずしも一致しないのです。

図表 利益とキャッシュの関係

損益計算書			キャッシュの計算	
売上	100	(掛売上 40)	利益	20
仕入	50	(掛仕入 5)	掛売上	-40
諸経費	20	(未払 5)	掛仕入	+5
減価償却費	10		諸経費	+5
利益	20		減価償却費	+10
			キャッシュ	0

(出所) 筆者作成

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

図表の例では利益は 20 計上されていますが、手許に残るキャッシュはありません。この原因の一つは掛売上の割合が高いことが挙げられます。黒字倒産という言葉を知っていますか。利益が出ていても、売上先の倒産によって翌月多額の掛売上の入金がなくなってしまう場合、給料や仕入先への支払いができなくなり、たちまち資金繰りが行き詰まって倒産してしまうこともあります。仮に売掛金の 40 が突如入って来なくなってしまう場合、たちまち資金繰りに窮してしまうことになるでしょう。

利益は企業の経営活動によるもうけを表していますので、とても大事なものです。損益計算書はその利益を計算する財務諸表の一つで、どれだけ売上を稼ぎ、費用を使うことでどれだけ利益を獲得したかを表すものです。しかし、損益計算書だけでは実際のキャッシュがどのように入ってきているか、残高はいくらあるのかを把握することはできません。貸借対照表は期末時点での資産、負債、資本の金額を表す財務諸表なので、その時点でキャッシュの残高はわかりますが、キャッシュがどのように増減したかを表すものではありません。

キャッシュが期中にどのように増減し、期末にいくら残っているかを表す財務諸表をキャッシュフロー計算書と呼んでいます。キャッシュフロー計算書を見ることで、利益からはわからない会社のキャッシュが把握できるので、黒字倒産などのリスクを事前に把握することができるようになります。